

秋田県高校生商品開発コンテスト決勝 最優秀賞・優秀賞

実施期日 平成27年11月21日

平成27年11月22日付 北鹿新聞掲載



上位独占の大館、前列左から最優秀賞の新沢さん、斎藤さん、赤崎さん。後列左から優秀賞の布施なつみさん、柳田佳奈さん、菅原早絵さん、渡部莉奈さん、大館高

大館が最優秀と優秀

高校生商品開発コンテスト

1月1日に「秋田のおいしさPRを」

県内の27年度高校生商品開発コンテスト決勝大会がこのほど、秋田市の秋田明徳館高校で開かれ、斎藤明日夏さん、赤崎奈菜さん、新沢まりんさん、大館高生活科学科2年生3人の「まじこ」が考案した「AKITAcolor」が最優秀賞に選ばれた。続く優秀賞も同校の「ずんちやうず」が獲得し上位を独占。最優秀作品は来年1月、都内のアンテナショップ・あきた美彩館で期間限定メニューとして提供されるほか、3人が接客販売を体験する。

期間限定メニューに

生徒の起業意識を高め、ふたものを審査員5人が得点するなどの食理解を深めてもらおうと、県教委と県高校教育研究会家庭部会が主催し、6回目、県内13校から41点の応募があり、書類審査を経て決勝大会は大館の7チームを含む各校6チームが出場した。4分間のプレゼンテーションと90分間で5人分を調理し



最優秀賞の「AKITAcolor」

指導にあたった今島康子教諭は「今回は夏休み期間を使って生徒たちが真剣に考え、係分担任など取り組みが印象的だった。調味料だけでなく、いぶりがつやこじの塩分を生かすなど工夫していた」とたたえた。

種を豚肉で巻いた天ぷらを一つ押し。いぶりがつこチーズは新沢さんが自宅で作ったことがあるといい、「発想豊か」とユニークと好評だった。秋田にきたいと思つてもらいたい」と話した。

同校としては最優秀は2年ぶり。統合のため年度末閉校を控えて「歴史に校名を残したい」という2チームの意願がなかった。3人は驚きと喜びにあふれたという。リーダーの斎藤さんは1月の接客体験に向け、「おいしさを東京でもPRし、秋田にきたいと思つてもらいたい」と話した。

